

在宅ねたきり老人の生活実態(その2) — “床ずれ”問題を中心に—
 和洋女子短大 ○我妻美奈子 和洋女子大文家政 伊藤秀三郎
 立正大文 三友雅夫

目的 本研究は、在宅の要介護(ねたきり)老人の日常生活 特に衣生活、住生活の実情を明らかにし、“ねたきり老人”と介護者の抱える日常生活の問題群(生活ニード)を整理し、“より健やかな、より安らかな”生活を確保するにはどうしたらよいかを探究することとを目的とした。“床ずれ”は、日常生活の問題群のなかでも重要視される問題なので、本報告では、“床ずれ”およびその関連事項に焦点を絞り分析することとした。

方法 データ集収は、質問紙法、面接調査法によった。調査は、昭和61年4月～5月の三週間にわたり実施した。回収票は475票であった。統計処理は、コンピューター(FACOM ANALYST V10/L20A)によった。集計票は398票であった。統計処理は、二次クロス集計の方法をとった。

結果 調査項目83の全項目にわたる単純集計データの分析結果は、「在宅ねたきり老人の生活実態」(日本家政学会 東北・北海道支部 第32回 総合研究発表会 講演要旨、およびその研究発表時に配布した資料(タイフ印刷)に示しておいた。

本報告に関連する主項目の統計事実は、“床ずれ”のある者21.4%で、比較的到低率であった。この“床ずれ”の二次クロスデータ、関連する項目の清拭、入浴、おむつ使用、寝具、介護者、介護期間などの二次クロスデータの分析結果は、研究発表時に詳細を示し、検討結果を発表する。